

令和元年度

第1回八王子市みどりの基本計画策定検討懇談会

令和元年6月18日(火)

本庁舎事務棟7階702会議室

八王子市環境保全課

令和元年度 第1回八王子市みどりの基本計画策定検討懇談会出席名簿

出席者	座長	沼田	真也
	副座長	阿部	伸太
	委員	市古	太郎
		町野	いこひ
		大久保	徹
		田所	喬
		城所	幸子
		藤原	啓二
		米田	剛行

欠席者	小野	弘人
	竹下	博士
	上中	章雄
	木村	一史

事務局職員	環境部長	三宅	能彦
	環境保全課長	石井	正光
	環境保全課	佐藤	高広
		福士	大介
		吉澤	遼
	公園課	宮澤	雅記
		島田	涼子
		島村	俊一
	アジア航測(株)	藤原	真太郎
		海士部	誉士

公開・非公開の別

公開（傍聴人 1人）

# 令和元年度第1回八王子市みどりの基本計画策定検討懇談会 次第

日 時 令和元年（2019年）6月18日（火）  
午後3時00分～5時00分  
場 所 702会議室

## 1 開 会

## 2 議 題

(1) 昨年度までの策定内容（素案たたき台）について

(2) 施策体系図及び個別施策について

(3) 市民アンケート結果について

### 【資料】

- ・みどりの基本計画改定版（素案たたき台） . . . . . 資料1
- ・個別施策概要 . . . . . 資料2
- ・施策体系図 . . . . . 資料3
- ・アンケート結果について . . . . . 資料4

## 1. 開会

**事務局** 本日は昨年度に委員の皆様から頂いたご意見がある程度まとめた、たたき台を提示させていただく。今年度は取りまとめの年であり、年内には素案をまとめたいため、活発なご議論を頂きたい。

## 2. 参加者紹介

- ・人事異動に伴う委員変更の紹介。

## 3. 議題

### (1) 昨年度までの策定内容(素案たたき台)について

**事務局** 素案たたき台について説明

#### ■ 質疑応答

**座長** 昨年度の議論内容を加味して、計画の背骨が出来上がった。今後はさらに肉付けをしていくことになる。今の説明について、質問、提案はあるか。

**委員** 市内の緑の状況について、より構造的に解釈、理解する提案があってもいいのではないかと。例えば、高尾や陣馬などの緑の深い山地から始まり、何本かの河川沿いにくさび形に緑地や草地が入ってきている。一方で、市南部に位置する多摩ニュータウンには丘陵地が広がっている。このような構造を表現すると、市民にもわかりやすいのではないかと。「地域別の行動方針」とつなげる意図で記載できるとよい。

**座長** 市の自然を空間的な広がりで表現し、地理的な特徴を生かしたコンセプトがあってもよい。

**事務局** 現行計画においても、地域特性を山地、丘陵地、台地、低地の大きく 4 つに分類して色分けして表現している。市内にいろいろな地形がある中で、「地域別の行動方針」ではみどりの骨格軸として道路や河川などを表しながら、拠点となるみどりやオープンスペースをわかりやすく表現していきたい。また都市マスの中でも各地域の役割、機能が表現されているので、これらも踏まえていくこととしたい。

**座長** 市の西側と東側で緑地に対して期待する効果や役割などが異なると考えられる。地域ごとのコンセプトを作成できるとユニークな計画になる。難しいかもしれないが検討いただきたい。

**委員** 緑被率について減少した具体的な場所と、減少原因を知りたい。減少の原因がわかっているのであれば、今後の施策に反映することができる。

**事務局** 緑被が減少した大きな要因は 3 つある。1 つ目は市東部に位置する多摩ニュータウンの開発である。特に 16、19 住区の開発に伴い緑被が減少した。2 つ目は新滝山街道の開通に伴う周辺のみどりの減少。3 つ目は採石場の拡張によるみどりの減少。多摩ニュータウンについては、緑被率は減っているが計画的な公園整備を行っており、みどりの満足度では 8 割以上の住民が満足している。ただし、今後は中央部を含めて、みどりの減少について考えていかなければならない。

- 委員** 今後 10 年で予測される減少量の把握に対してどのように対応していくのか、減少する要素は把握しているのか。またあとどのくらいでみどりの減少が落ち着くのか想定されているか。
- 事務局** 現状では川口物流がある。5 月に出された東京都の指針においても「みどりを減らさない」ことを掲げている。八王子市でも、みどりの「量」を減らさない方向で取り組んでいく。数値として表すのは難しいところではあるが、そのような視点で取り組んでいきたい。
- 座長** 減少しても問題ないと評価するのであれば、数値目標を設定する必要はない。緑被率の数値を使うならば、減ったか、増えたかを議論するのではなく、「何%以上は確保する」などで充分ではないか。同じく、一人当たりの面積等の数値も人口減少に伴って値が減少するため適切ではない。数値目標を用いるのであれば、課題につながるような見せ方を工夫して頂きたい。
- 委員** 手を入れれば復活するような里地里山や上川の里のような場所を増やすなどの目標を掲げてはどうか。面積的には無理だとしても、荒廃した場所を何ヶ所か指定して里地里山を再生する場所を掲げる。10 年先のことを考えたら、そういう目標があってもよい。数値的には数 ha もできないにしても、市民が意見を述べて何ヶ所かを里地里山にしていこうというのが、市民が一番手っ取り早くできる保全のきっかけだと思う。
- 座長** 今後の具体的な施策の検討で重要となる視点である。また、緑被率についても、人工林や雑木林など環境の質によって意味合いが異なるので、樹林地をタイプ分けして表現できるとよい。
- 事務局** 里山についての確保する面積目標はないが、環境基本計画の中でも里山の保全箇所を進行管理の指標として掲げている。みどりの基本計画は環境基本計画の下位計画でもあるため、計画の進行管理は主に環境基本計画で行うが、見合う形で本計画を作り上げていきたい。
- 委員** 京王八王子駅付近に合同庁舎が建設されているが、そこは市民が 10 年くらい前から公園を作ってほしいという要望していたと聞いたことがある。現状駅周辺には公園が少ないが、市街地に公園を増やしていく方針はないのか。
- 事務局** 現在計画中の庁舎にも、具体的な用途は決まっていないものの、広場的な要素はあると聞いている。
- 座長** みどりの基本計画を進めていく上で、これから人工物を建設することと、みどりがある程度残していきたい、増やしていきたいという思いがせめぎあってくると思うので、「みどりは大事」という声を届ける意味でも、是非このような場で積極的にご議論いただきたい。
- 事務局** 市街地における公園整備の予定についてお話しする。明神町 2 丁目の第 4 小学校の近く、京王八王子駅から歩いて行ける場所に都営住宅跡地がある。現在、東京都と調整しているが、公園化する計画がある。これは令和 2 年に事業化することを目標として事業を進めている。もう一つは子安町に医療刑務所跡地がある。こちらについても八王子駅南口の新たな集いの拠点としての整備計画を検討中である。
- 委員** 緑被率の減った理由を記載した方がよい。また、減少理由に農地が無かったのは、変化の割合が小さかったからか。また生物多様性のコラムがあるのは非常によいが、さらにプッシュするために「SATOYAMA」という単語が国際的に認知されているということも併せて記載した方が、一般の方にアピールする上でよい。
- 事務局** ご意見頂いた通り、緑被率の減少理由については詳細が記載されていないが農地が減少して

いることに変わらないので、記載内容を検討していきたい。

**座長** 基本計画の新しい部分ができるよう記載して頂きたい。「みどりを次世代に残していく」というコンセプトが1つの柱として取り入れられており反映されていてよいが、もう一点、前回まで議論してきた「資金がない部分を知恵で何とかしよう」という部分も反映して頂けるとありがたい。具体的には、みどりによってお金を稼ぐ仕組みを積極的に取り入れるなど、その根幹となる哲学の部分のわかりやすくできるとよい。ご検討頂きたい。

## (2) 事務局 施策体系図及び個別施策について説明

### ■ 質疑応答

**座長** 今の説明について、意見、提案はあるか。

**委員** 市民緑地認定制度は緑化重点地区でないと思えないが、八王子市は市街化区域、調整区域も含めて緑化重点地区であるとの理解でよいか。

**事務局** 現行計画では市内全域である。今回も踏襲する方向で考えている。

**委員** 農地について、「農地の保全」で農地バンクによる農地の貸借促進とある。ここで生産緑地も貸借が可能となった。現状で営農されている方は自分の農地で手いっぱいだと聞いているが、今後新規就農者が増えていけばこのような対応が増えていくかもしれない。記載について検討いただきたい。

**事務局** 生産緑地に関しては、2022年の問題などの課題がある。農林課等の関係部署とも相談していきたい。

**委員** 業務提携などを通じて多くの農地を残していきたい。なるべく特定生産緑地として農地を残していきたいと考えているので、「生産緑地の貸借」だけでも十分だと考えられるので文言を記載することを検討頂きたい。

**委員** 平成29年法改正の1番大きなところは、緑地に農地を位置付けたこと。それを踏まえて策定するみどりの基本計画においては、いかに農地を位置付けて、記載することができるかが重要となる。是非、特定生産緑地や農地の貸借についてもどこまで書けるかわからないが記載して欲しい。

**座長** 都市住民にとっての自然体験である農作業などは重要な体験であるため積極的に計画に記載して欲しい。

**委員** 都で実施している「農の風景育成地区」を活用することは考えていないのか。農業だけでなく、観光やレクリエーションの視点を取り入れると、「農」の生産地が別の付加価値を生む。俗な言い方をするとお金を生むことになり、これまで普通にやっていたことが新たな収益になる可能性がある。さらに言えば市のステータスになり、ブランド力のある風景になる可能性がある。

**事務局** 田園風景を有する地区は八王子だけでなく都内で見ても貴重なエリアであると認識しており、みどりを活かす観点からも重要だと感じている。

**委員** 「風致地区制度」について積極的に記載しているのは素晴らしい。風致地区制度を使った景観の維持とは、具体的にはどういったこと想定しているか。

- 事務局** 具体的な場所は高尾の御陵である。記載内容については担当内で議論している。
- 委員** 素案では歴史や文化の視点があまり強くないため、風致地区制度はとても大事な部分になる。風致地区を今後どのように活かしていくかは今の時代ではわからないかもしれないが、制度を創設した当初は「規制」ではなく「育成」の概念であったはずなので、「育成」の観点である風致地区を計画で記載していくことはとても貴重な事例となるため残して頂きたい。
- 事務局** 現行計画でも風致地区の記載があり、制度は維持していきたい。また景観の維持に関しては高尾地区が重点地区として、細かい取り決めを行っている。風致地区なども含めて市内の景観の維持をしていくため、よい表現を議論していきたい。
- 座長** 上記の議論は、全体の方針や計画の哲学の部分にも組み込めるとよい。生物多様性などのキーワードは具体的な施策に落とし込むことや目標につなげることが難しい。しかし、「今までであるものを大事にしたい」、「農地や風致地区を残したい」などの考え方はわかりやすく、市民にも伝わりやすいので、計画の全体背景として記載できるとよい。
- 委員** 八王子市内には都立公園がたくさんあるが、都立公園に対する記載は不十分ではないか。他市の計画では、都立公園に対する要望になっているが、記載されているものもある。また高尾や陣馬以外の自然公園に言及されておらず、記載が偏っている印象を受ける。
- 事務局** 基本的には都立公園は広大な面積があるため、みどりの拠点として位置付ける考えである。ただし東京都管理なので、施策レベルでどこまで市の計画に記載できるかについては、検討する必要がある。
- 委員** 住民にとっては都立公園、市立公園だろうとあまり変わらない。住んでいるところに近いところが身近な公園である。なかなか都や市の管理が行き届かない公園は市民が参加する機会を増やしていかないといけない。生物多様性についても自然環境調査などをボランティアと一緒にやるのが主流となってきている。どこまで記載できるかは別として、都の公園支部や指定管理者と話し合う機会を作ることで、計画がよりよいものになると考える。
- 事務局** 東京都の施策であっても関連のあるものは載せるのがよいということか。
- 委員** 今後の方向性は大きく違わず、同じ方向を向いていると思うので、記載してよいと考える。
- 座長** 例えば、生物多様性でも単独の小さい範囲で議論をしてもあまり意味はない。流域で考えなければいけないなど、様々な要素があるので、連携して積極的に検討していくことが新しい取り組みになる。貴重な意見だと思うので、是非検討いただきたい。

### (3) 事務局 アンケート結果について説明

#### ■質疑応答

- 座長** 今の説明について、意見、提案はあるか。
- 委員** 結果にある「大規模な公園」とは、東京都が管理する公園か。
- 事務局** 設問では八王子市が管理する公園を対象とした。「大規模な公園」としては富士森公園など市内の5つの公園を対象とした。「中規模な公園」は家から10分、20分程度や小学校区域程度の距離にある公園。「身近な小さな公園」はさらに小さい家の近所の公園である。定義は調査票に記載したとおりである。

- 座長** 実際に回答する方が公園の定義をどのように受け取るかで回答内容も異なってくるので、解釈は難しいと感じた。
- 委員** 自由回答については、意見をカテゴリー分けして整理集計するとよい。例えば、落ち葉という回答が複数あればそれに目を向けて対策を検討することができる。世田谷区でも緑が売りの自治体だが、落ち葉が大変で木を切りたいなどの要望が多く、切らざるを得なくなっている。まちなか緑化事業に関連して花壇を増やす取り組みもあるので、落ち葉を集めて堆肥化してそれを使うなどのサイクルができないのか議論があっても良い。
- 委員** 放射能の関係で、落葉の堆肥化は難しいのではないかと。
- 事務局** 落ち葉の堆肥化については、国からは通知が出たままとなっている。自治体独自の判断に基づいて判断していると聞いている。
- 座長** 個人的には過度に規制をする時代ではないと感じている。また街路樹の記載はどうするのか。
- 事務局** 街路樹に関しては、落ち葉の問題や管理上の問題があるため、どこまで計画に記載できるかについて関係所管で調整している。何らかの形で整理したいと考えている。
- 委員** 堆肥まで記載する必要はないが、「落ち葉」について対策を検討するぐらいは記載した方がよい。
- 座長** 環境審議会で議論をする内容だと思うが、落ち葉の処理についてどう対応していくかも考えていくべきだと思う。
- また年代毎の反応の違いや地域毎の反応の違い、地域ごとでも年齢が異なってくると違った反応になると思われるがどうか。
- 事務局** 年代別にも集計を取っている。今回は地域別の意見をクロス集計したが、若者世代の意見にも着目したいので、再度クロス集計したものを提示する。
- 座長** 年齢と住んでいる場所だと、どちらの影響が大きいのかを見てみたい。前向きに検討して頂きたい。
- 委員** 10～20代の「自由意見」の吸い上げもできるとよい。これからの八王子を見据えていく上で見てみたい。
- 委員** 居住年数が20年以上かつ70代以上の回答者が多い。その中で維持管理活動に参加していない人の理由の第1位が「忙しい」であるが、高齢者はそんな忙しいのか疑問。若者がなぜボランティア活動に参加しないのか、子育て世代がどのような公園を望んでいるのかも気になる。高齢者は勝手な意見が多いため子育て世代の意見を反映してほしい。
- 座長** みどりを維持するための視点も重要である。
- 若い方や年配の方がどう考えているのか、いろいろな切り口で分析してデータを上手く使って頂きたい。
- 委員** 同じ設問で「活動に関する情報がない」と回答した方の割合が約10%ある。これは防災関係の市民意識調査でも同様の傾向であった。市民一人一人に情報が回ってないことは大きな問題。活動に関する情報を、SNSの活用などの方法で提供できるとよい。また、緑被率や林地の区分など緑の「質」に関する情報発信も簡略化できないか。緑被率の算出には大きな予算が必要と聞いているが、AIを活用するなどして市民が八王子のみどりがどうなっているのか知りたいと思える情報を伝えることが求められているのではないかと。
- 事務局** SNS等に関しては、大学の学生が市内の魅力のあるみどりをSNSで発信する提案があった。



このような事例は計画の中でも紹介していきたい。

**座長** 成功を必ず約束したものだとつまらないものになってしまうので、大学生を巻き込むのであれば失敗を許すような、少し遊びも含んだ内容で試行しながら進めていけるとよいと思う。

#### (4)その他

**事務局** 今後のスケジュールについて説明。掲載可能な写真の提供について提供を依頼。

**座長** 最後に意見・提案はあるか。

**委員** 防災の観点について、土砂災害ハザードマップのレッドゾーンは流木によって人家が影響を受けることが図示されている。どういった裏山の状態だと流木の被害、流木そのものの増減があり、どのような管理がいいのか。裏山・里山と住宅は共生していかなければならないが、一方レッドゾーンが出ている以上、安全性の視点でハザードマップを出した部署と意見交換しておいた方がいいのではないかと思った。

**座長** みどりの機能の中でも都市防災は重要である。整合性を取るため、ぜひ調整・検討してほしい。

以上をもって令和元年度第1回八王子市みどりの基本計画策定検討懇談会を終了する。

以上  
午後5時00分 閉会